19

小金井良精と長谷川泰

幸野　　健，唐沢　信安，殿﨑　正明，山本　　鼎，志村　俊郎
日本医科大学 医史学教育研究会

はじめに　星薬科大学のご紹介で星新一先生の書かれた『祖父小金井良精の記』の原本となったマイクロフィルム 3 巻を共同発表者の唐沢信安が生前に借り，使用許可を得て済生学舎に関係する箇所を書き写した資料をまじえて長谷川泰と小金井良精との関係について考察する．

小金井良精　小金井良精は，1859 年 1 月 17 日（安政 5 年 12 月 14 日）越後長岡藩士の子として生まれる．1880 年に東京大学医学部を卒業するとベルリン大学・ストラスブルグ大学へ留学，解剖学と組織学を学ぶ．1885 年に帰国，翌年日本人で初めて東京帝国大学医学部解剖学教授となる．1888 年と 1889 年の夏，北海道でアイヌの骨格を調査して日本人の起源はアイヌであるとし，人類学会を創設した坪井正五郎の唱えるコロボックル説と論争を展開する．（コロボックル論争）．1893 年から 1896 年帝国大学医科大学学長をつとめ，1893 年には日本解剖学会を創設した．夫人の小金井喜美子は森鴎外の妹で，星製薬を設立した星一は娘婿に当たり，その息子が星新一で小金井良精の孫に当たる．1944 年（昭和 19 年）10 月 16 日没．

日記によると，「明治四年　秋　大学南校ニテ大改革ヲ行レ，是ガ為メ一度閉校サル．数日ヲ経テ試験ノ上，再ビ入学ヲ許セラル．良精幸ニイシ級第ス．明治五年　此年ヨリ俗稱「兼雄」ヲ離シ実名「秀精」ヲ用ユ．三月四日證人（小松精一君）ニ談ズベキ次第有之ニ付本日帰宅スベキ旨南校勤惰局ヨリ達セラル．右之次第ニ付早速退校ヲ願ウ……小松殿ノ厄介ニナルモ限リアリ且ツ南校ハ不得止退学シ，進文学社ニ通学スルモ更ニ目的ナシ．秋田氏過般豊岡県エ出仕セラレシヲ以テ将来ノ学費ヲ給セラルルヲ得ベシト考ヘ居りシ處右ノ凶事ニ付，青年心ヲ以テ未来ヲ熟考シ，非痛シテ止マリキ．而シテ難苦益々相積候勢ナリ．十月叔父小林雄七郎君ノ助力ニ依テ，将来ノ方向ヲ定メ，医学ニ志シ，第一大学区医学校ニ入学シ，且ツ入舎セシハ是即チ明治五年十一月七日ナリ．良精満十三才十一ヶ月ナリキ.」とあり，最初大学南校に学ぶも故あって退学し，叔父小林雄七郎君ノ助力により医学校に入学するとあるが，この時医学校には長谷川泰がおり，面倒を見たものと思われる．

また，明治 8 年春に故あって実家に帰り，その時から現名「良精」を名乗り，明治 13 年 3 月の卒業試験では 16 人中トップの成績で卒業し，ドイツへの官費留学が決まる．

同年 11 月 11 日，四ヶ原村，小松彰の邸宅に，長谷川泰，叔父の雄七郎，兄をはじめ，親族たちが集まり，長野県士族小松維直の娘，八千代との婚約式を行い，同月 14 日横浜で長谷川泰は小金井良精の留学を見送っている．

長谷川泰　長谷川泰は，北越戊辰戦争で慶応 4 年 5 月 13 日の朝日山の戦いにて親友時山直八を失った山県有朋の河井継之助への怨念を自らに向けて展開される．先ず明治 34 年 1 月から「薬律改正問題（医薬分業論）」が起り，長谷川泰は医師数が約 3 万 2 千人，薬剤師数が 2 千 5 百人と絶対数が足りないので医薬分業は時期尚早である事を理由に反対すると，日本薬局方調査会の丹波敬三，青山胤通，山田薫，小池正直等入沢達吉を含む委員が総辞職し，結果として長谷川泰は時の総務長官山県有朋に責任を取らされ衛生局長職の辞表を提出させられた．次に文部大臣菊池大麓に命じて入沢達吉をはじめとする東京帝国大学教授陣を使って長谷川泰等大日本医会が作成した医師会法案を貴族院で否決させ，明治医会を組織し，長谷川泰の手塩にかけた済生学舎の廃校させることを目的とした専門学校令を勅令で出さしめ，長谷川泰潰しを展開する．小金井良精は立場上医師会法案反対の側にまわらざるを得ず，板挟みになりつらい立場となる．

まとめ　小金井良精は長谷川泰と同郷で幼い時から親しかった．長谷川泰は明治 45 年 3 月 11 日に亡くなるが，良精は度々見舞いに行き，その葬儀にも参列している．